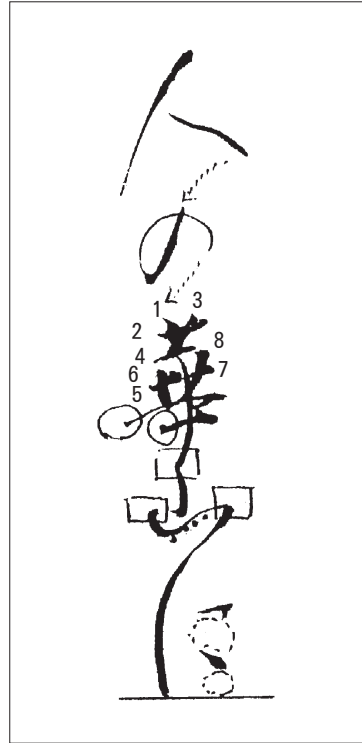


◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

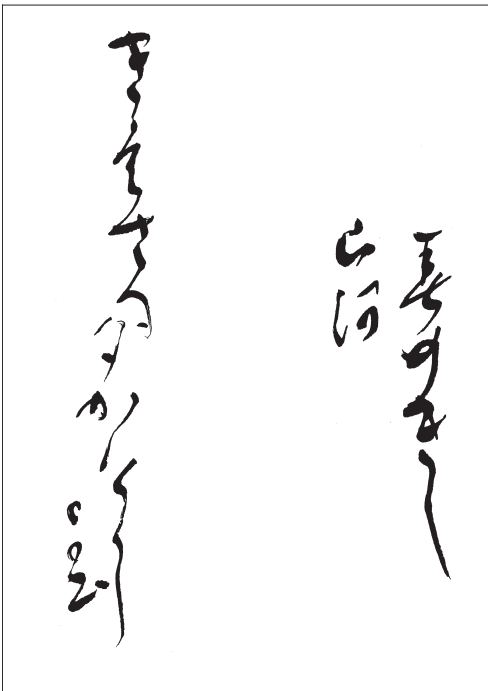
元永本古今集(392)



- 1、字句 人の華山に
- 2、形式 半紙をたてに使い、中央に一行で臨書する。落款は左余白に本文に添う大ききで「〇〇臨」と入れる。
- 3、概観 今月より臨書の学習を始める『元永本古今集』は、『古今和歌集』を写した最古の完本(全二〇巻が完全に残っている本)です。巻末に「元永三年七月廿四日」(平安時代末期・一二世紀)とあることから『元永本』と呼ばれています。書き手は、源俊頼とも藤原定実とも言われていますが、藤原定実が元永三年には既に没しているという説があり、書き手は不明です。
今回のシリーズでは、前半は基本的な①漢字とかなの調和②放ち書き③連綿を学びます。後半はさまざま散らし書きを学びます。
◎漢字でかたくならないように。漢字もかなも同じ気持ちで筆を運ぶこと。
- 4、学習のポイント：漢字とかなの調和(その一)
「人」入筆し、筆圧を抜いて左へ払い軽く二筆目へ。筆圧をかけながら二筆目を引く。その筆圧のまま「の」に入る。円を描く線はあまり筆圧をかけない。「華」の筆順に注意。たて画には横画よりも筆圧をかけていることにも注意する。〇の入筆の方向をまねてみる。最終のたて画では「山」の一筆目を意識しておく。「山」□で鋒先を立て軽く止め、筆を運ぶ。∴の線に強弱がある。最終画からつなげるようにして「に」の一筆目に入り長目に引く。「こ」の方向・広さ・高さにも注意する。

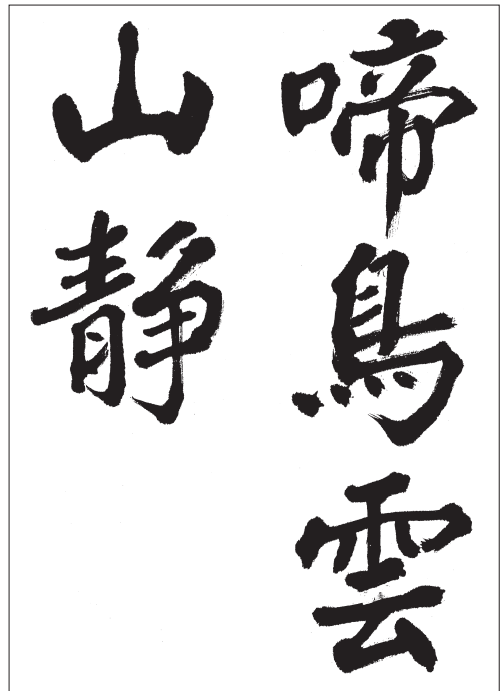
昇試第三部 (漢字・かな) (予告)

(三月二十二日締切)



平岡華雪先生書 春めきし山河消え去る夕かげり(虚子)

訳：雲のたなびく山に鳥がなくて静かだ。

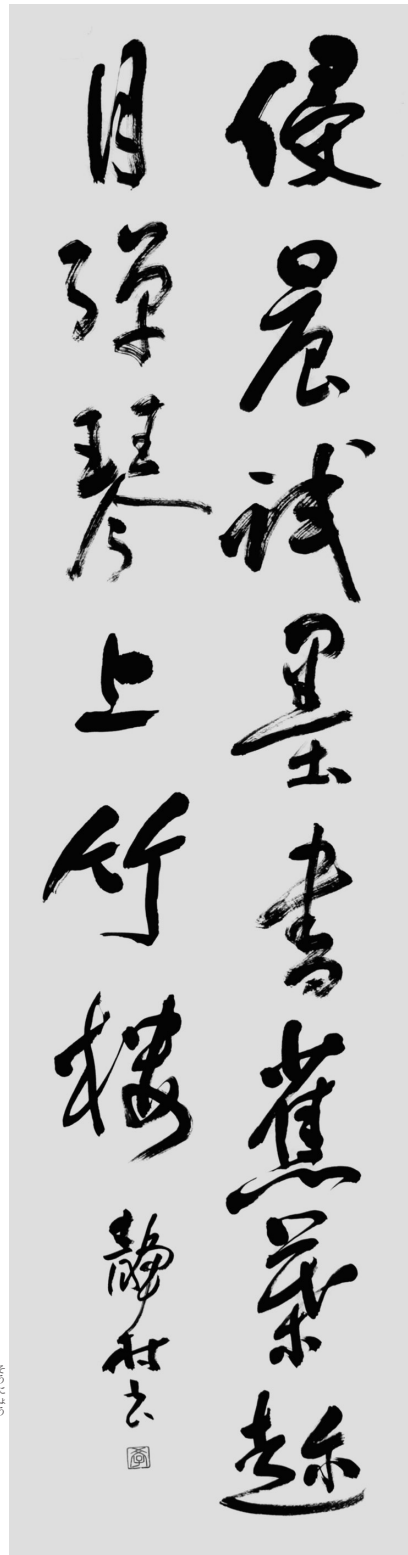


平岡華雪先生書 鳥啼いて雲山静かなり(徐貴)

A

鈴木静村先生書

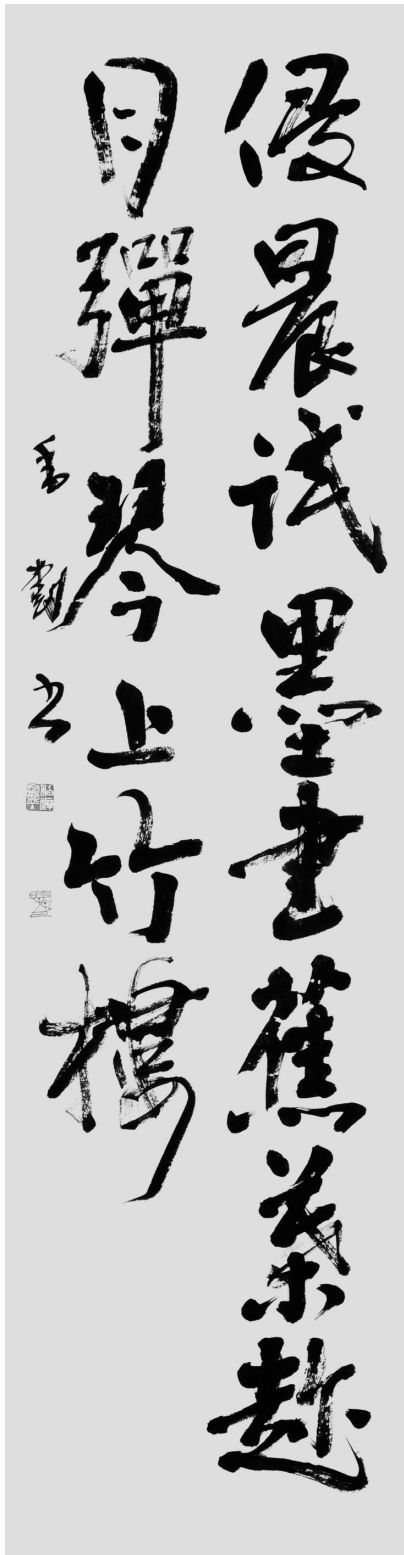
侵晨試墨書蕉葉 趁月彈琴上竹樓 (袁隨園)
 晨を侵し墨を試みて蕉葉に書し、月を趁い琴を弾じて竹樓に上る。



B

高橋香樹会长書

侵 旁「文」を「丈」古典に多い。試 戈法がポイント。墨 頭部大きく。書 この書き方もある。蕉 連火で安定感を。趁 走勢は伸びやかに。
 月 失敗、一変させてほしい。彈 草書で小。竹 米芾調。樓 一般的字体。活きのいい線への感覚を捉えて貰いたい(特に初歩段階のみなきへ)。墨継ぎは右行六字目、左行四字目。もちろん目安のこと。



最近、自分の作が何か騒がしいような気がしてなりません。それは、私の連筆が早い為、文字内の不用な連綿線が多くなることによるように思われます。そこで、なるべく連筆を遅くしてみました。すると、文字内の連綿は少なくなり、文字と文字の間の連綿線がなくなり単体の作となりました。墨継ぎは、「蕉」と「琴」です。
 訳：早朝に墨をすって芭蕉の葉で書の練習をし、月夜に乗じては竹林の見える楼に上って琴を弾く。

予告 昇試第一部漢字(三月二十二日締切)

芳草連山翠萬重

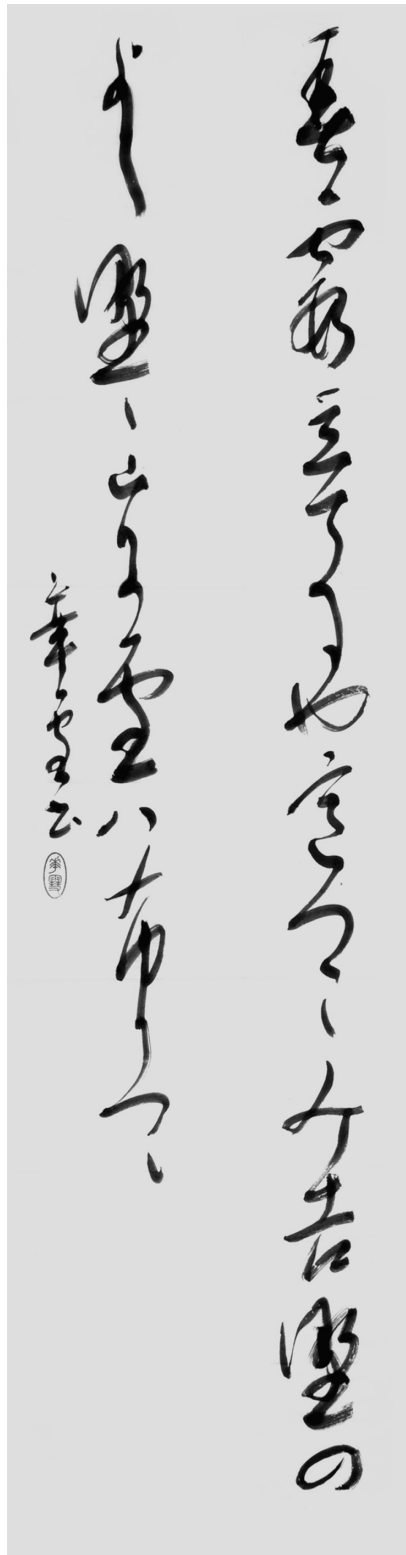
天涯何處不春風 (劉秉忠)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

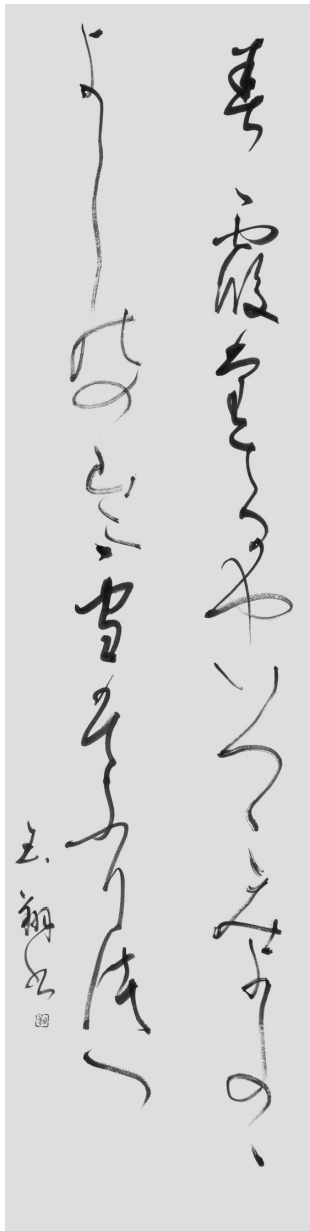
春霞たてるやいづこみ吉野のよしのの山に雪はふりつ、(古今和歌集 よみ人しらず)
春霞立てるや意つこみ吉野のよし野、山尔雪八布りつ、



B

福田玉翔先生書

春霞堂てるやいつこみよしの、よし能の山ニ雪盤ふり徒つ



学び方

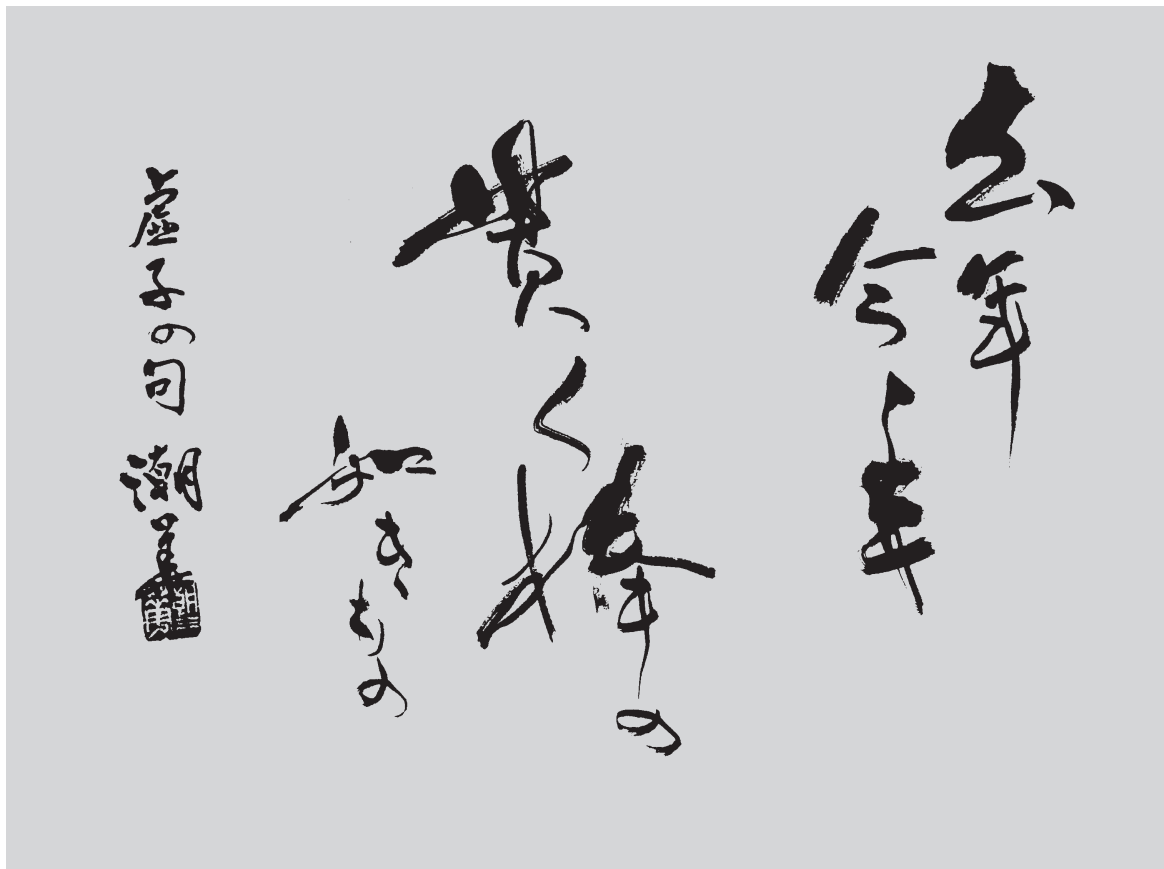
〔歌意〕春霞がたっているというのがそれは何処なのだろう。吉野の山には雪が降っている。古今和歌集一卷の春の部に掲載されているよみ人しらずの歌です。私もかつて吉野の桜を見に行ったことがあります。桜は咲いていても吉野山の朝はかなり寒かったのを覚えています。吉野山と言えば春霞のイメージですが昼間との温度差は大きいでしょう。春霞とは霧だとも水蒸気だとも言われていますが、あまり科学的に考えるよりポーとかすんだ光景がいいですね。でも私は春霞は科学的には大陸の黄砂ではないかと本気で考えていた時があります。シルクロードの旅の後です。戈壁砂漠の広大さに圧倒され、そのおびただしい砂が黄砂だと納得したのでした。広大な砂山にひがな一日じっと座っている老人が印象的でした。やはり日本の四季が私は好きです。和歌の世界感には日本ならではのものです。

「古今和歌集」は、醍醐天皇の勅命により編纂された初めての勅撰和歌集で、延喜五年(九〇五)に成立。撰者は、紀貫之・紀友則・壬生忠岑・凡河内躬恒。序文は、仮名序は紀貫之、真名序は紀淑望が執筆。歌風は「七五調」が多く、懸詞・縁語が多用され、「万葉集」の「ますらをぶり」に対し、「たをやめぶり」と称された、婉曲な感情表現と

予告昇試第一部かな(三月二十二日締切)

見わたせば柳さくらをこきまぜて宮こそ春の錦なりける(古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)



水貝 潮華 先生 書

去年今年貫く棒の如きもの

高浜虚子

今月の作品は、半紙を横に使用してみました。「去年今年」という季語を独立させ、インパクトをつけます。そこへ、タップリと空間を取り、「貫く棒の」を山場となるように少し大きめの文字で、左傾斜で中央に配置します。「如きもの」は、そこにそっと添えるように静かに収めました。

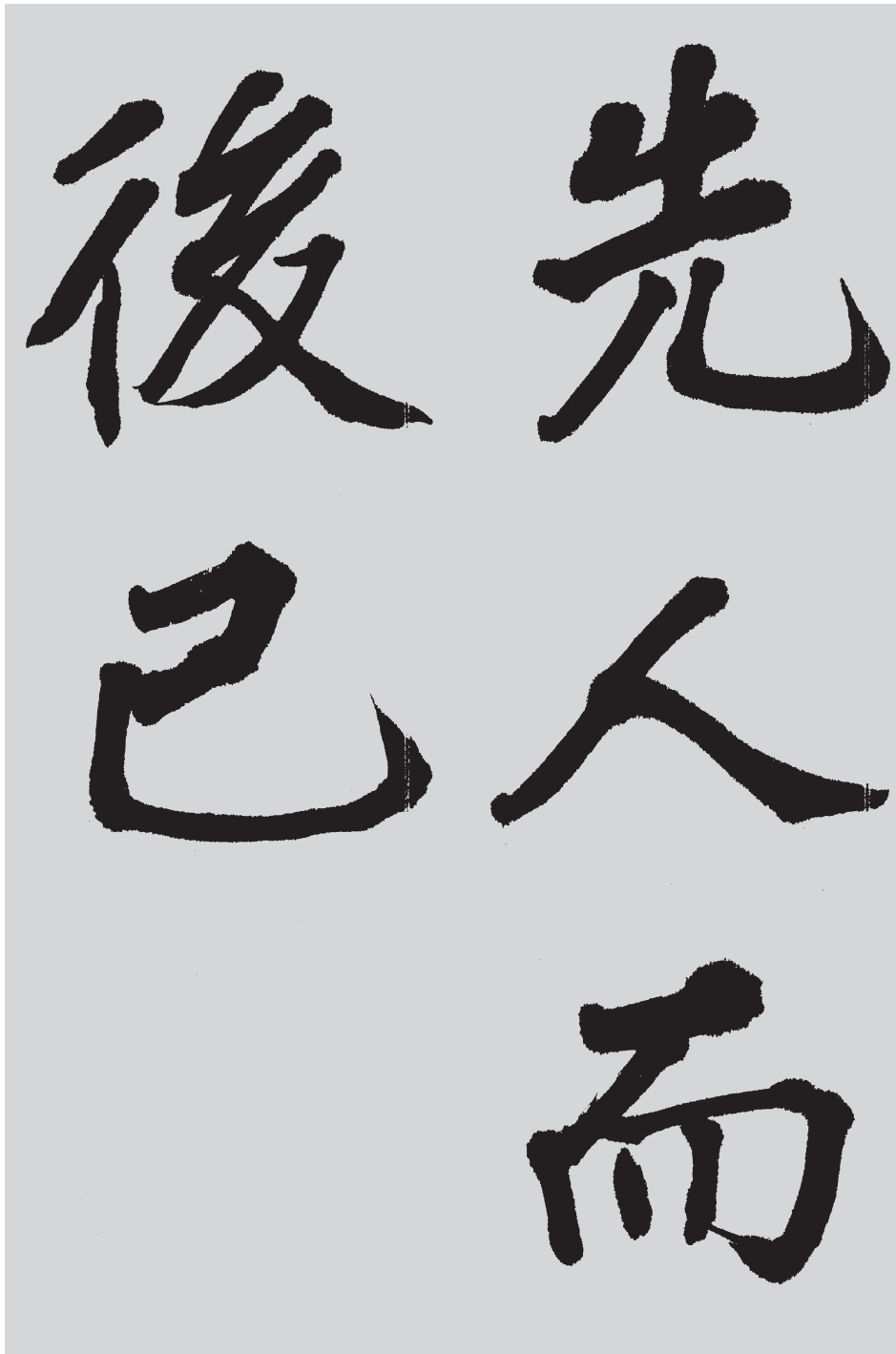
今回使用した筆は、静村卒寿記念筆の大(6号)です。紙に対して筆が太いと思われるでしょうが、私は床に半紙を置き、垂直に筆が当たるようにして、筆先を紙に振じ込むつもりで書いています。是非一度試してみてください。

高浜虚子(一八七四〜一九五九)

俳人、小説家。河東碧梧桐を介して正岡子規に師事。碧梧桐とともに子規門下の双璧。「ホトトギス」主宰。「花鳥諷詠」を理念とし、「客観写生」を方法として唱え、「ホトトギス」で展開。句集「五百句」「六百句」「定本高浜虚子全集」。小説「俳諧師」など。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

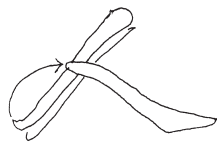
①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

人を先にして己を後にす。(礼記)
訳：人のことを先にして自分のことは後にする。

〈基礎用筆を的確に〉
「人」左払いのや、反り気味の用筆によって右払いが的確に決められる。「後」旁の転折は筆を起こして用筆、次画へと送筆、この基本的手法が大切。

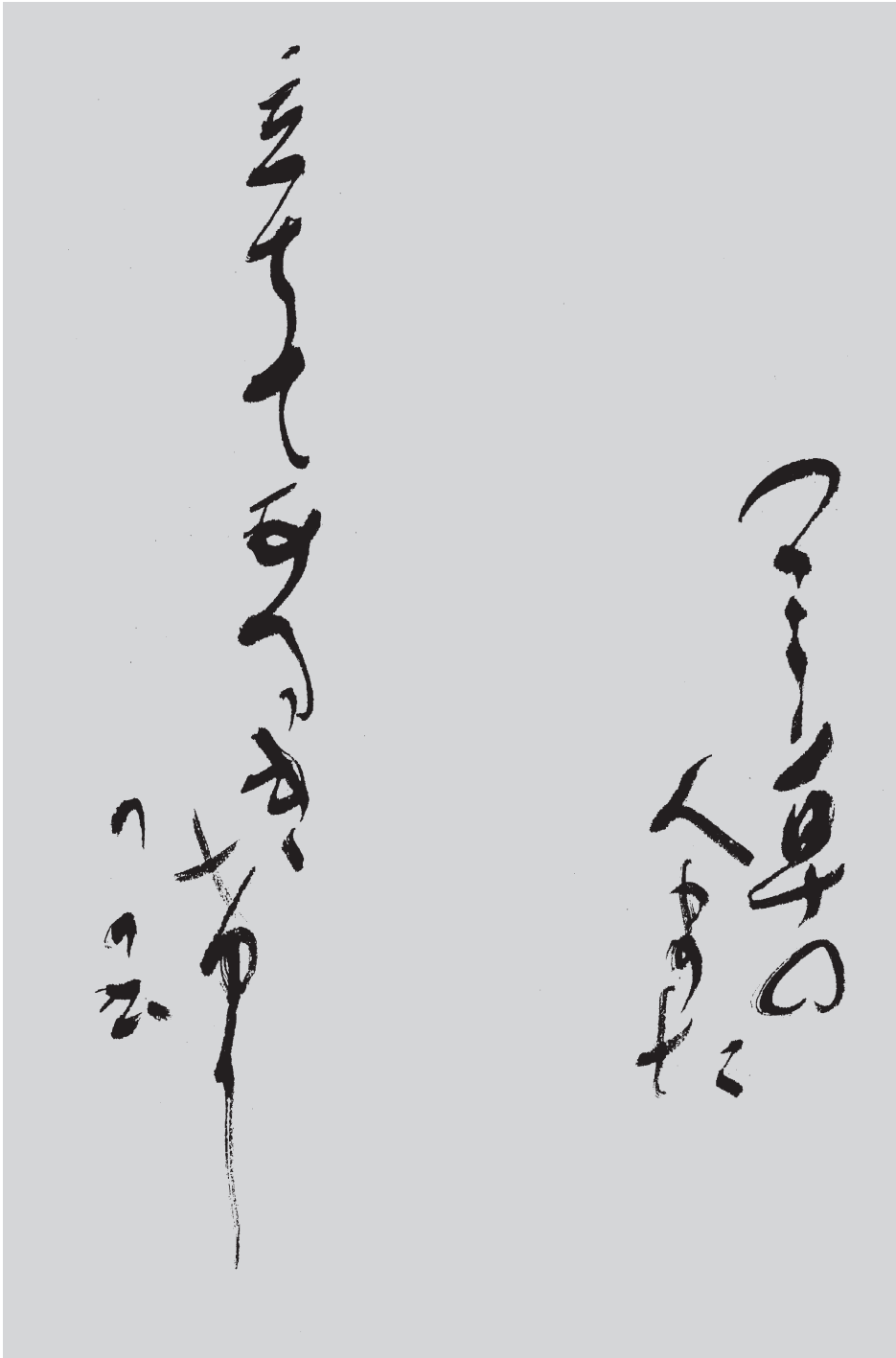


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

摘草の人また立ちて歩きけり (素十)
つ三草の人また立ちてあるき希り



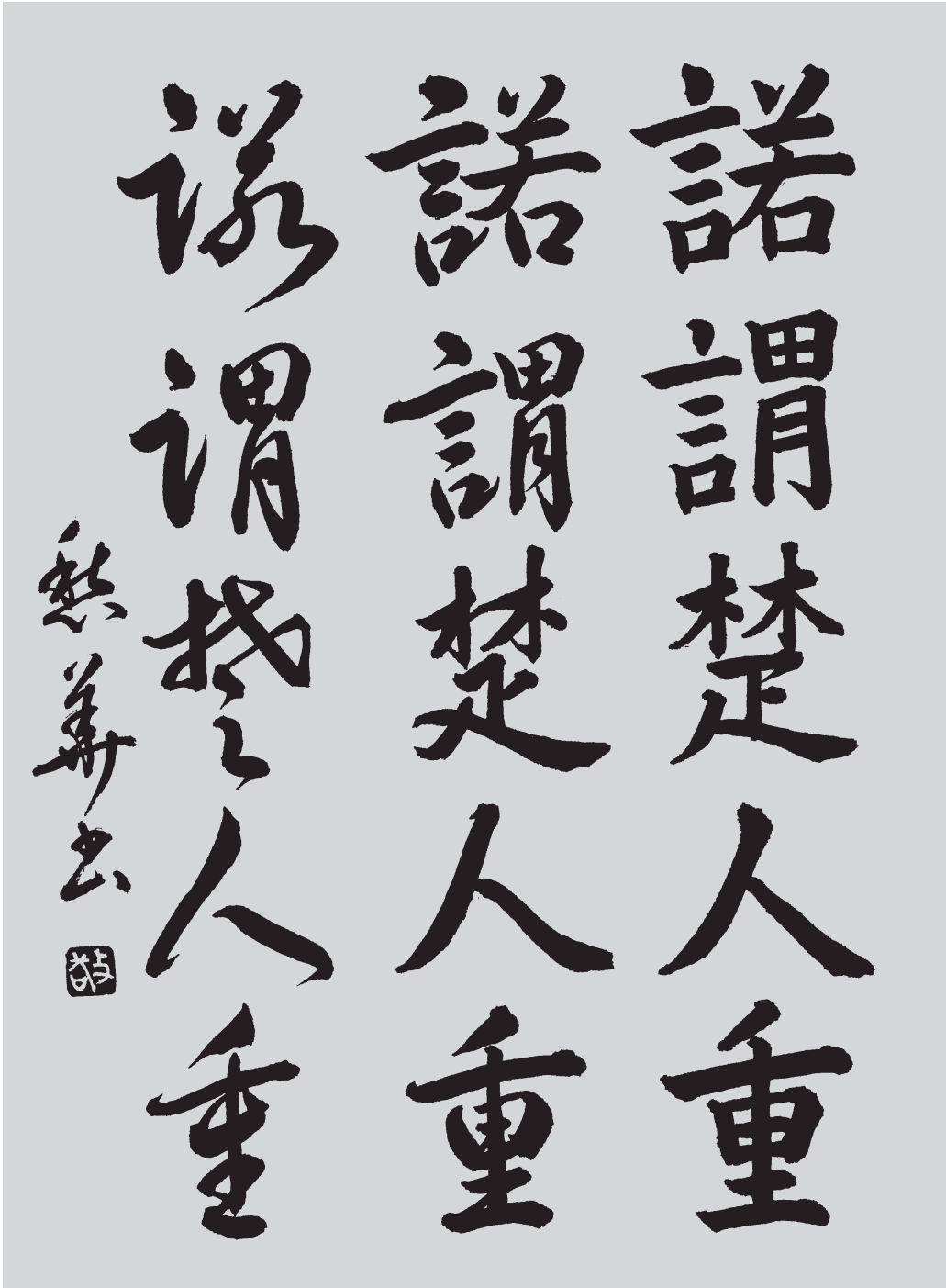
〈訓練でリズムを〉
右群「つ三」三画が重なる場合は、上部を切り、次を繋げて流れに変化。「草」上部を大きく、末画を短く重心を下げた結体、「た」の左辺を極端に離して右行に調和させる。左群「立」点は横向きに注意。「ち、て、る、き」は前字からの受け筆。逆入の手法、特に初歩段階にとって必須要項。
リズムに乗って・曲線―ゆっくり・直線―はやく・転折―とまる

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

石田愁華先生書

諾謂楚人重(李白)
諾には楚人の重きを謂い



訳：かの地にゆかりの古人のごとく「君は、信義については楚人季布の「諾」の重さが賛えられ、

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

稲畑 曄 穂 先生書

川上 香 蓉 先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

川は結界である。この橋を渡った
女性たちは、俗世を離れ、聖なる
空間へと迎えられるのだ。

一たび思う 少年の時
書を読んで 空堂に在り
燈火しぼし油を添え
未だ厭わず 冬夜の長きを

課題 1 (初段階以上)

一たび思う 少年の時
書を読んで 空堂に在り
燈火しぼし油を添え
未だ厭わず 冬夜の長きを
『こころのふるさと良寛』南雲道雄

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題 2 (初段階以下)

川は結界である。この橋を渡った女性たちは、俗世を離れ、聖なる空間へと迎えられるのだ。

『百寺巡礼』室生寺 五木寛之